

令和6年度第5回埼玉県バーチャルユースセンター

運営検討会議 次第

日時 令和7年2月17日(月)
13:10～15:00
会場 オンライン

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 埼玉県バーチャルユースセンター試行状況報告について

(2) 埼玉県バーチャルユースセンター中間報告について

4 閉会

◆ 埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

No.	氏名	備考
1	阿部 雄介	大日本印刷株式会社 コンテンツ・XRコミュニケーション本部XRコミュニケーション事業開発ユニット ビジネス推進部企画第2グループ
2	青山 鉄兵	文教大学・准教授
3	さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
4	篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室主席指導主事
5	東海林 智之	上尾市子ども家庭総合支援センター主査
6	ブローハン 聡	一般社団法人コンパスナビ 事務局長・支援事業部 部長代理
7	堀田 香織	埼玉大学・教授
8	綿貫 能理子	毛呂山町福祉課副課長

埼玉県バーチャルユースセンター 試行状況報告

2025.02.17 第5回運営検討会議

認定NPO法人さいたまユースサポートネット



10月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
10月 1日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(13:00~13:45)	0名
10月 3日(木) 10:00~14:00	VYCを探検しよう<操作方法デモ>(10:00~10:45)	5名(男:2名、女:3名)
10月 8日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(10:00~10:45) トークカフェ(13:00~13:45)	7名(男:5名、女:2名)
10月11日(金) 13:00~17:00	VYCを探検しよう！<小学生デモ>(16:00~17:00)	15名(男:7名、女:8名)
10月15日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:50)	2名(男:2名、女:0名)
10月16日(水) 10:00~11:00	VYCを探検しよう！<狭山市教委操作方法デモ> (10:00~11:00)	6名(男:2名、女:4名)
10月17日(木) 10:00~14:00	哲学カフェ(13:30~14:30)	9名(男:4名、女:5名)
10月22日(火) 12:00~16:00	バーチャル県民SHOW(14:00~15:30)	2名(男:2名、女:0名)
10月25日(金) 13:00~17:00	宝探し(小学生コラボ会)(15:00~17:00)	43名
10月29日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:45)	10名(男:4名、女:6名)

10月利用者(述べ人数)	10月登録者数
99名	21名

11月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
11月 1日(金) 13:00~17:00	LGBTQ基礎知識セミナー(14:00-15:00)	6名(男:4名、女:2名)
11月 5日(火) 10:00~14:00	健康教室(10:30-12:00)	6名(男:3名、女:3名)
11月 6日(水) 13:30~14:30	学びの場デモ(13:30~14:30)	4名(男:2名、女:2名)
11月 8日(金) 13:00~17:00	表現コミュニケーションWS(10:30-12:00)	1名(男:0名、女:1名)
11月12日(火) 10:00~14:00	表現コミュニケーションWS(13:30-13:30)	2名(男:1名、女:1名)
11月15日(金) 13:00~17:00	県立ふじみ野高校デモ(13:30-13:30)	16名(男:10名、女6名)
11月19日(火) 10:00~14:00	こころの話・からだの話(11:00-11:30)	6名(男:5名、女:1名)
11月22日(金) 13:00~17:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	0名(男:0名、女:0名)
11月24日(日) 13:00~17:00	★こどもの居場所フェア埼玉(12:00-16:00)	50名
11月26日(火) 10:00~14:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	5名(男:3名、女:2名)
11月29日(火) 13:00~17:00	推し本紹介しよう!(15:00-16:00)	6名(男:3名、女:3名)

11月利用者(述べ人数)	11月登録者数
102名	16名

12月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月 3日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月 6日(金) 9:00~17:00	①加須市教育支援センターデモ(10:05-11:05) ②プログラミング教室「スクラッチやろう」(13:30-14:30) ※Zoom ③トークカフェ(16:00-17:00)	①7名(男:1名、女:6名) ②1名(男:1名、女:0名) ③1名(男:1名、女:0名)
12月10日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:30-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月13日(金) 14:00~18:00	①見沼の生き物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①3名(男:2名、女:1名) ②1名(男:1名、女:0名)
12月17日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①0名 ②15名
12月19日(木) 17:00~18:00	コンパスナビデモ(17:00~18:00)	5名(男:2名、女:3名)
12月20日(火) 11:00~15:00	★つながるSAITAMAフェスタ ①トークカフェ(11:00-11:45) ②トークカフェ特別講演(13:15-14:00) ③本のおしゃべり(14:00-15:00)	①2名 ②12名 ③16名

12月活動実績 (2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月26日(木) 11:00~13:00	煮ぼうとうオフ会inさいたま市若者自立支援ルーム・桜木(11:00-13:00)	7名(男:5名、女:2名)
12月27日(金) 14:00~17:00	①見沼の植物を知ろう!(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①1名 ②0名

12月利用者(述べ人数)	12月登録者数
71名	27名

1月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月 7日(火) 18:30~20:30	新春トークカフェ(19:00-20:00)	1名
1月 8日(水) 14:00~16:00	発酵の話し(14:30-15:30)	0名
1月 9日(木) 16:00~18:00	暦のハナシ(16:30-17:30)	0名
1月10日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月15日(水) 16:00~18:00	お仕事トーク「学校の先生」(16:30-17:30)	0名
1月16日(木) ①10:00~10:30 ②16:00~18:00	①本庄市教育支援センターデモ(10:00-10:30) ②観るラジオ☆バーたま!(16:30-17:30)	①6名 ②1名
1月17日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:00-17:00)	0名
1月21日(水) 13:00~15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	1名
1月22日(木) 14:00~16:00	①NPOクラブしっきーずデモ(14:30-15:30) ②見沼の自然を知ろう(14:30-15:30)	①5名 ②1名
1月23日(木) 12:00~15:30	①煮ぼうとうオフ会in上尾市子ども若者自立支援 ルームここから (12:00-13:30) ②ポレポレひろば(14:00-15:00)	①9名 ②8名
1月24日(金) 15:00~17:00	学びの時間(15:30-16:30)	0名

1月活動実績 (2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月25日(土) 15:30~17:30	本のおしゃべり(16:00-17:00)	2名
1月28日(火) 14:30~16:30	からだの話(15:00-16:00)	4名
1月29日(水) 16:00~18:00	ポレポレひろば(16:30-17:30)	0名
1月30日(木) 16:00~18:00	学びの時間(16:30-17:30)	0名
1月31日(金) 15:00~17:00	推しトーク「音楽」(15:30-16:30)	3名

1月利用者(述べ人数)	1月登録者数
41名	5名

2月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月 3日(月) 14:00~16:00	お仕事トーク「ネイリスト」(14:30-15:30)	0名
2月 4日(火) 13:00~15:00	暦のハナシ(13:30-14:30)	0名
2月 5日(水) 14:30~16:30	観るラジオ☆バーたま!(14:30-16:30)	3名

2月利用者(述べ人数)	2月登録者数
3名(2/5時点)	0名(2/5時点)

その他、活動実績

◆広報活動

実績

- デモ活動(クローバーハウス、本庄市教育支援センター、NPOクラブしっきーズ)
- つながりのある中学・高校、地域団体等にチラシ配布(約3200部)
- 児童養護施設(ホザナ園、カルテット)にチラシ配布
- 操作マニュアル作成(動画、紙面)
- HPに毎月のイベントカレンダーを掲載
- YouTube広告掲載(予定)

2月

イベントカレンダー

1	土		
2	日		
3	月	お仕事トーク	14: 30~15: 30
4	火	暦のハナシ	13: 30~14: 30
5	水	観るラジオ☆バーたま!	15: 00~16: 00
6	木		
7	金	ポレポレひろば	14: 30~15: 00
8	土	VYC向上委員会	14: 30~15: 30
9	日		
10	月		
11	火		
12	水	ゆるっと自習室	13: 30~14: 30
13	木	推しトーク「好きな漫画」について語ろう!	13: 30~14: 30
14	金	ポレポレひろば	14: 30~15: 00
15	土		
16	日		
17	月		
18	火	プログラミング教室	13: 30~14: 30
19	水	ゆるっと自習室	10: 30~11: 30
20	木	ポレポレひろば	14: 00~15: 00
21	金	ゆるっとトーク	19: 00~20: 00
22	土		
23	日		
24	月		
25	火	VYCオープンDAY	13: 30~14: 30
26	水	ポレポレひろば	14: 30~15: 00
27	木	推しトーク「マイクラ」について語ろう!	13: 30~14: 30
28	金	みちねこのブックトーク	15: 00~16: 00

Pick Up!

05 観るラジオ☆バーたま!
(水) 保護者編「不登校は親子で人生に向き合う時間」

08 VYC向上委員会
(土) VYCでこんなことしたい!
こんな場所だったらいいなをトーク!



おすすめ!

03 お仕事トーク
(月) 「ネイリスト」のお仕事って?
現役ネイリストさんを招きます

04 暦のハナシ
(火) 2月はなんて短い?
月初に聴くこよみトリビア

28 みちねこの
ブックトーク
(金) みなさんから寄せられたお便りを
もとに、オススメ本を紹介します

18 プログラミング教室
(火) 講師: Artista Programming School 青柳恭義 先生
Scratch (スクラッチ) を使って、プログラミングを体験!
パソコンでの参加を推奨 (イベント内でZoomを使用します)

ゆるっと自習室
12日 (水) 13: 30~14: 30
19日 (水) 10: 30~11: 30
宿題やドリル、持ち寄り勉強しよう

ポレポレひろば

～つながり遊びの会～
「私は誰でしょう」「以心伝心」など
イメージする力を使うゲーム!
14日 (金) テーマ: おやつ
26日 (水) テーマ: インドア

～ことば遊びの会～
俳句や詩を考えたり、物語を作ったり!
「ことば」を使った遊びを楽しもう!
7日 (金) テーマ: ペット
20日 (木) テーマ: コンビニ

推しトーク
推しについて思う存分語る時間
13日 (木) 「好きな漫画」
27日 (木) 「マイクラ」
奥深い世界を語ろう!

ゆるっとトーク
テーマは流れにまかせて
ゆるっとトークしましょう!

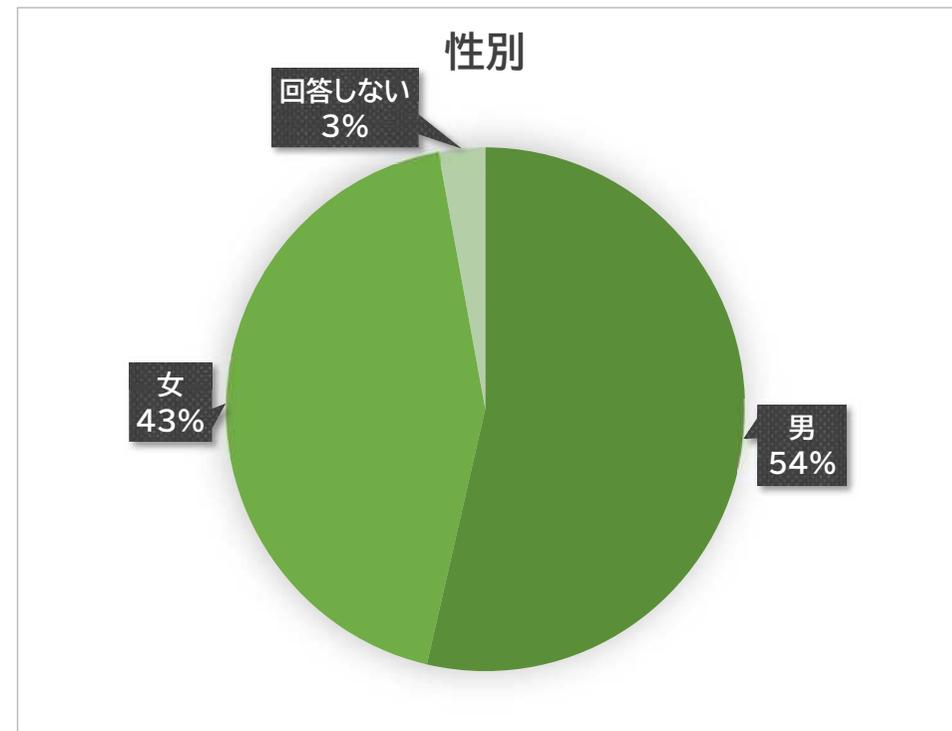
利用登録者数

	利用者(延べ人数)	登録者
10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
1月	41名	5名
2月	3名	0名

利用者累計	登録者累計
316名(2/5時点)	69名(2/5時点)

利用登録者の傾向

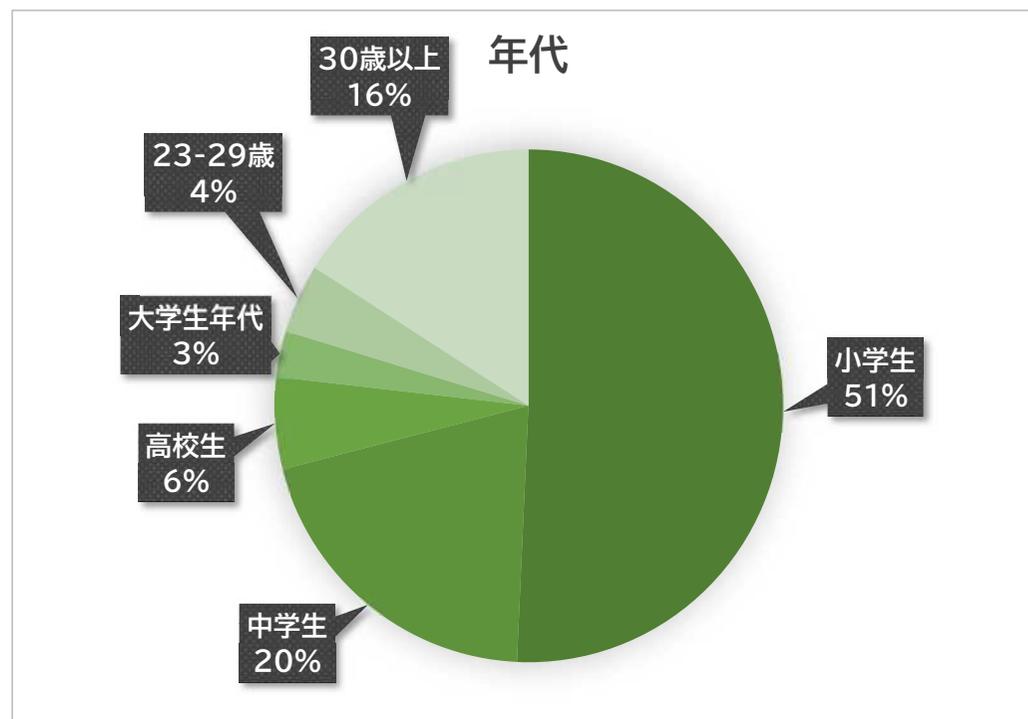
性別	男	37
	女	30
	回答しない	2



利用登録者の傾向

年代	小学生	35
	中学生	14
	高校生	4
	大学生年代	2
	23-29歳	3
	30歳以上	11

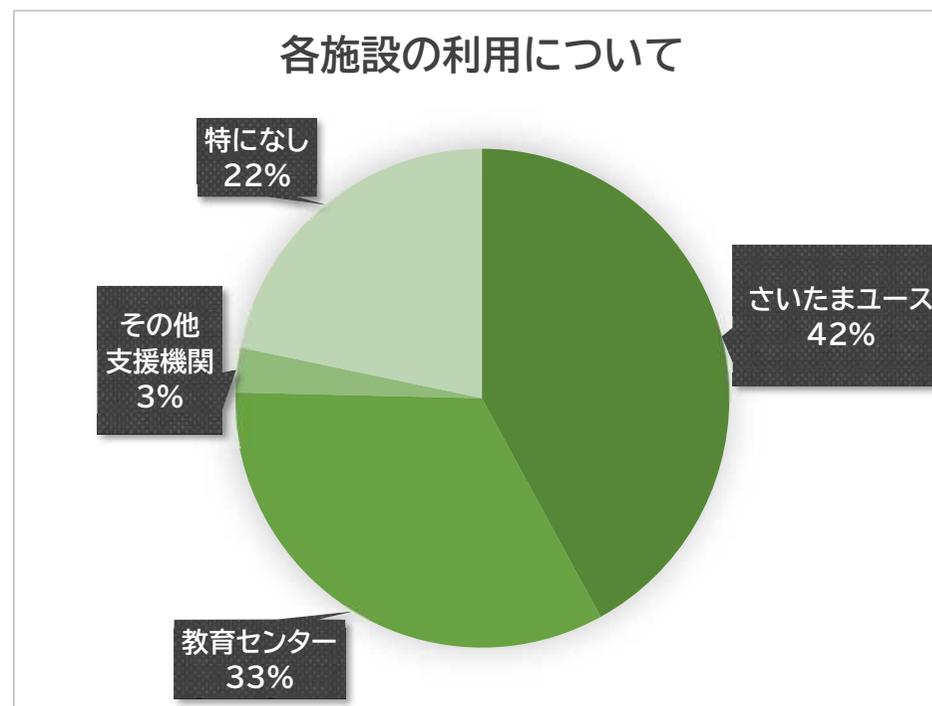
「30歳以上」では、学校教員や支援機関の職員、プログラム講師、さいたまユース利用者等からの登録があります。



利用登録者の傾向

各施設	さいたまユース	29
	教育センター	23
	その他支援機関	2
	特になし	15

「特になし」は、イベントでVYCを知った方や公共施設や学童クラブでVYCの情報を得た方等からの登録があります。



参加者の声(10月)

感想	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none">• 楽しい。• 顔を出さなくていいのが良い。• チャットでのやり取りは抵抗感が少ないと思う。• 対面での交流のほうが好み。	<ul style="list-style-type: none">• 不登校の子ども(小5)の保護者より、「居場所のない時間にオンラインで参加できる場所があることがありがたい」。• アバターを自由に作成できるようにしてほしい。• (バーチャル埼玉内で)季節ごとのイベントがあると楽しい。• 土日や夜の時間など、施設が開いていない時間に利用したい。• ログ機能があると良い(誰がどの時間にいたかわかるように)• チャットに「いいね!」などのリアクションがあると良い。• リアルタイムで文章を考えるのが苦手なので、テーマトーク以外で、ゆるっと気軽に雑談したい。

※アンケートは、デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加した小学生・10代～20代の若者に直接聞き取りとアンケート記入により収集。

- さいたま市若者自立支援ルーム
- 上尾市子ども若者自立支援ルームここから
- 子ども第三の居場所あそぼっくすほりさき
- 就労支援はたチカプログラム

参加者の声(11月～12月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none"> • (デモに参加した小学生) 遠くから画面を見たら、よく知っているゲームに似てたから参加した。アドベンチャーエリアでみんなと一緒に遊んだのが楽しかった。(バーチャル埼玉の中で)また会う約束をしたので登録してみたい。 • (小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者) 自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。 • (30代) ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> • (プログラムに参加した小学生) 見るだけじゃなくて体験コーナーがほしい。蔵造りブースエリアでコバトンコインを集めるのは楽しかった。もっと面白いと知名度が上がると思う。 • (20代) 仮想空間上でオンライン配信できるのは画期的だと感じた。しかし配信画面の画質が悪いのが気になった。 • (20代) キャラクターで他者との差別化ができず、誰が誰なのか見分けがつきにくい。髪型や髪色、メガネ等のアクセサリや服などは変更できると個性が出せる。またアバターのリアクションや他のアバターの様子が分かりにくい。

※イベントでのデモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから／子ども第三の居場所あそぼくすほりさき／就労支援はたチカプログラム

参加者の声(1月～2月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none"> • (不登校の子どもをもつ保護者) 不登校をテーマにした報道でVYCを知り、登録につながる。アバターで他者と交流できるところに惹かれ、きっかけになればと思った。 • (不登校の子どもをもつ保護者) 教育支援センターでのデモで子どもが興味を持ったため登録。 • (デモに参加した小学生) みんなできて楽しかった。(バーチャル埼玉に) 鉄道を走らせてほしい、運転してみたい。アウトドアエリアの自転車も自分で操作したい。自分が住んでいる市ができるとうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • (プログラムに参加した小学生) 自分でプログラムを企画したい。好きなものを紹介したい。 • (プログラムに参加した30代若者) チャットのUIを全体的に改良してほしい。フリック入力だけでもできるようにしてほしい。 • (デモに参加した20代若者) オンラインに居場所があればいいという訳ではない。会いたい人がそこにいるから(リアルの居場所に)行っている。 • (デモに参加した20代若者) すでに相談できる(リアルの)場所があるからバーチャルで相談しようとは思わない。顔が見えない人には、相談しない。安心感がないから。

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
クローバーハウス／本庄市教育支援センター／NPOクラブしっくーず／さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームこちら

参加者の声を受けて(10月)

- 基本は『利用登録⇒参加』という流れではあるが、居場所を必要とする子どもや若者は安心できる場と感じられて初めて参加・活動することができるため、『お試し参加⇒利用登録』という流れも必要だと考える。
- VYC開始段階ということもあり、利用者からの感想としてアプリの仕様に関する要望事項も多かった。今後プログラムに関する要望や、やりたいことなどをアンケートやプログラム後の交流時間を活用し聞き取っていきたい。
- さいたまユースの各事業プログラムに参加している子ども・若者や、ご協力いただいた狭山市教委の適応指導教室「茶レンジルームひだまり」の出席生徒はすでに、リアルな居場所に参加することができる。その上で、もうひとつの居場所としてVYCを周知し、利用拡大に努める。
- 一方で、各支援機関につながってはいても自宅等にこもりがちだったり、電話でしか連絡が取れないといった層も一定程度おり、VYCがそうした人たちの「居場所」となれるよう、各支援機関と連携して積極的にアプローチしていく必要がある。
- さいたまユースでは、リアル居場所への来所が少ない利用者に対して、なじみのスタッフを通して一斉メールなどでVYCを紹介している。今後、直接電話する等の個別対応も検討する。

参加者の声を受けて(11月～12月)

- プログラムに関しては「楽しかった」という声も多いが、参加者が少人数の日もある。今後、ターゲットを明確にしたプログラムを打ち出すなど周知方法を工夫していく。引き続き、プログラムに関する要望ややりたいことを聞き取っていく。
- 保護者の方や支援機関につながっている方の中で、自分のペースで参加できることを期待して、バーチャルユースセンターに興味を持ってくれた方がいた。そのニーズに応えられるようなプログラムを検討していく。

参加者の声を受けて(1月～2月)

- 子ども・若者自身が企画するプログラムを増やしていく。
- すでにリアルに居場所を持っている子ども・若者にとって、バーチャル空間は参加の選択肢が増えた状態であり、リアルの居場所の補完的な存在。
- 不登校の状況にある等、居場所を喪失していたり、どこか自分に合う居場所を探している子ども・若者(とその保護者)にニーズがある可能性。
- バーチャル空間での活動を通じて、段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく。

運営を通じて見えてきたこと

子ども・若者の声から

- アプリ自体に面白味を求める
- アバターの自由度、ワールド制作の自由度を求める
- 「なんとなくふらっと」入れる場所ではない

保護者の声から

- 県内中心部から離れた地方では、資源が限られている
- 保護者の困り感、子どもに合う育ちの場や支援機関を探している
- 保護者自身の孤立

プログラム運営から

- バーチャル埼玉内では、非言語で「自分らしさ」を出すことが難しいが、非言語で自己表現をしたい子ども・若者もいる
- スタッフや参加者との関係づくりのために、言語によるコミュニケーションを取らざるを得ないが、即座な言語化が難しい子ども・若者も多い
- メタバースは大きな可能性を持つ空間であるが、現状は言語によるコミュニケーションに頼るところが大きい

実際の利用状況から

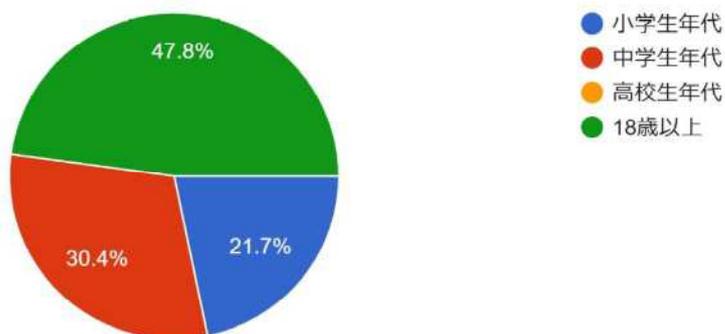
- さいたまユース利用者 → 一定の定着が見られる
- 教育支援センター利用者 → 定着が見られない
- 一般の申込み → 定着が見られない

VYC アンケート集計結果

(回答数:23 件)

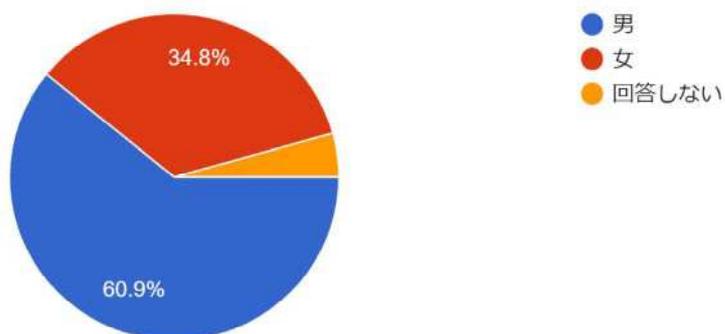
1. あなたの年代を教えてください。

23 件の回答



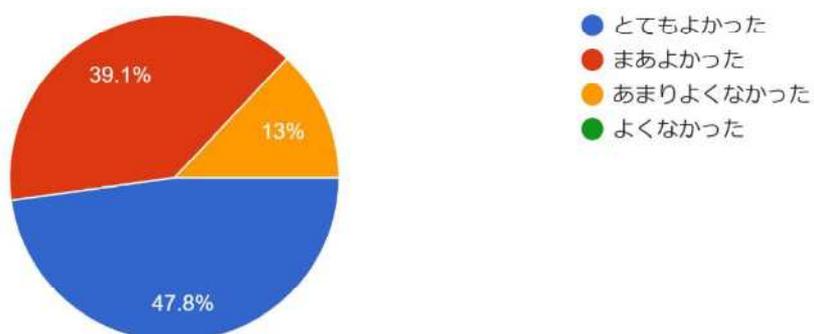
2. あなたの性別を教えてください。

23 件の回答



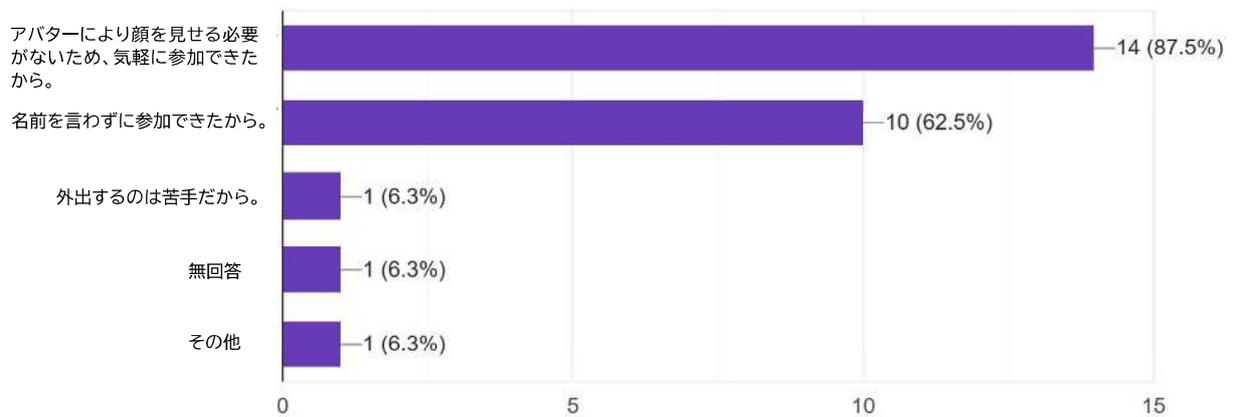
3-1. バーチャル空間でアバターになってバーチャルユースセンターに参加したことについてあなたの考えに近いものを1つ選んでください。

23 件の回答



3-2. (「とてもよかった」「まあよかった」を選んだ方にお聞きします。)よかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

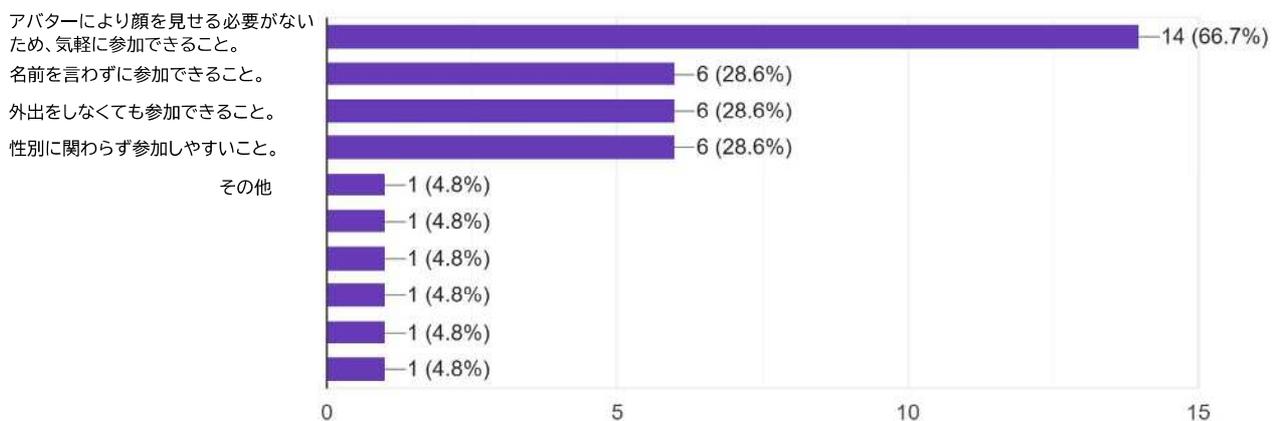
16件の回答



(その他)色々な人のチャットのコメントが楽しかった。

4. バーチャル空間の良い点はどのような点だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

21件の回答

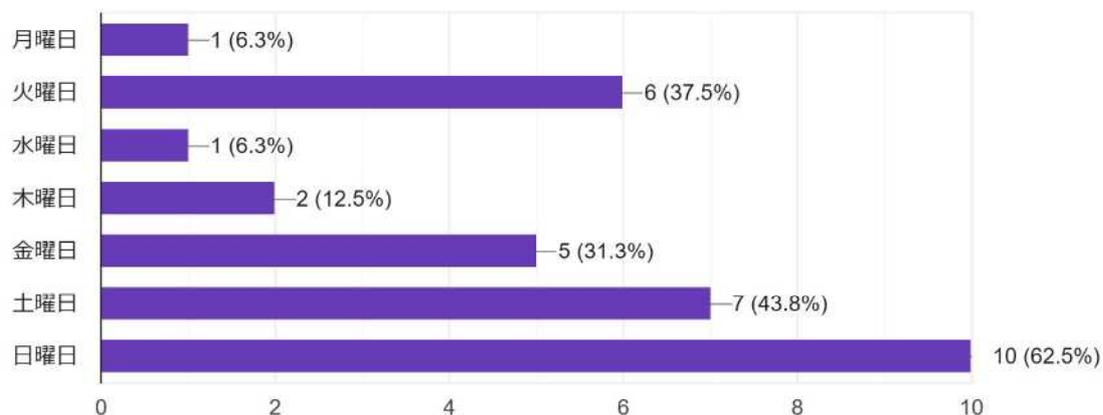


(その他)

- ・みんなでできたから
- ・楽しかった
- ・労力が少なくていい。寝ながら話せる
- ・アバターの操作ができた
- ・気軽にチャットなどができ、交流がしやすいと思った
- ・チャットの方が緊張しない時もあります

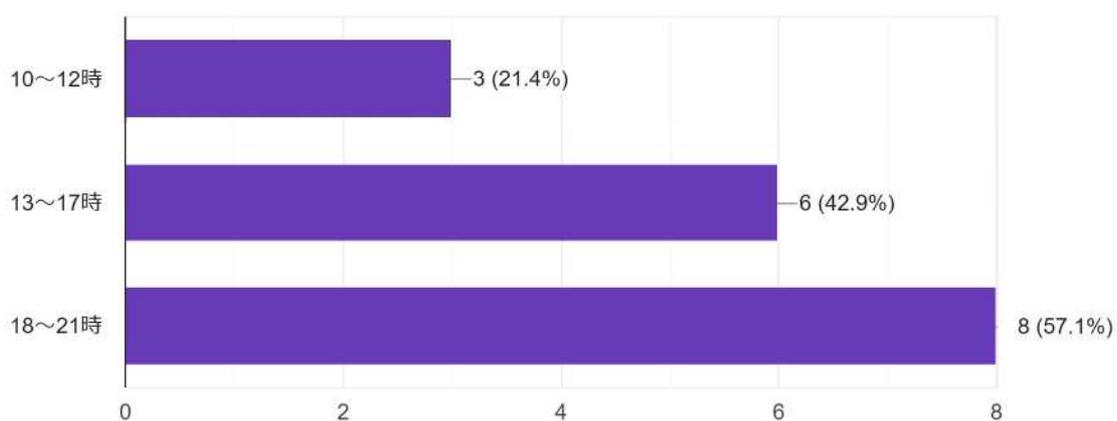
5-1. バーチャルユースセンターに参加しやすい曜日について、あてはまるものをすべて選んでください。

16件の回答



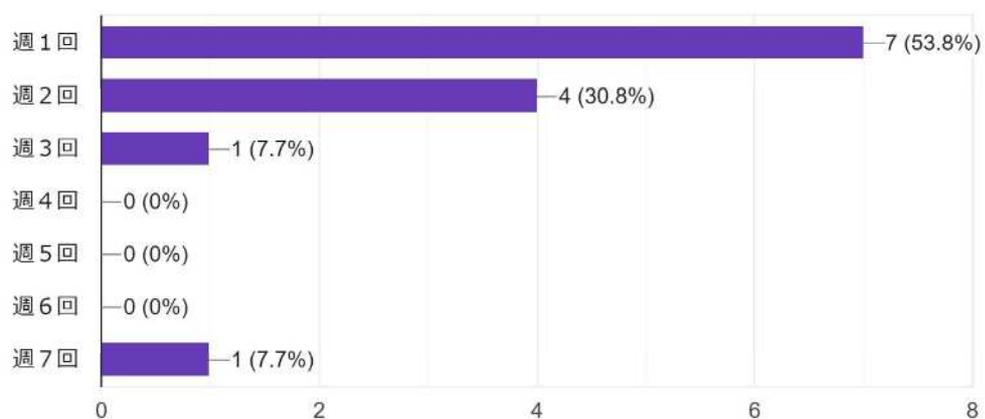
5-2. バーチャルユースセンターに参加しやすい時間帯について、あてはまるものをすべて選んでください。

14件の回答



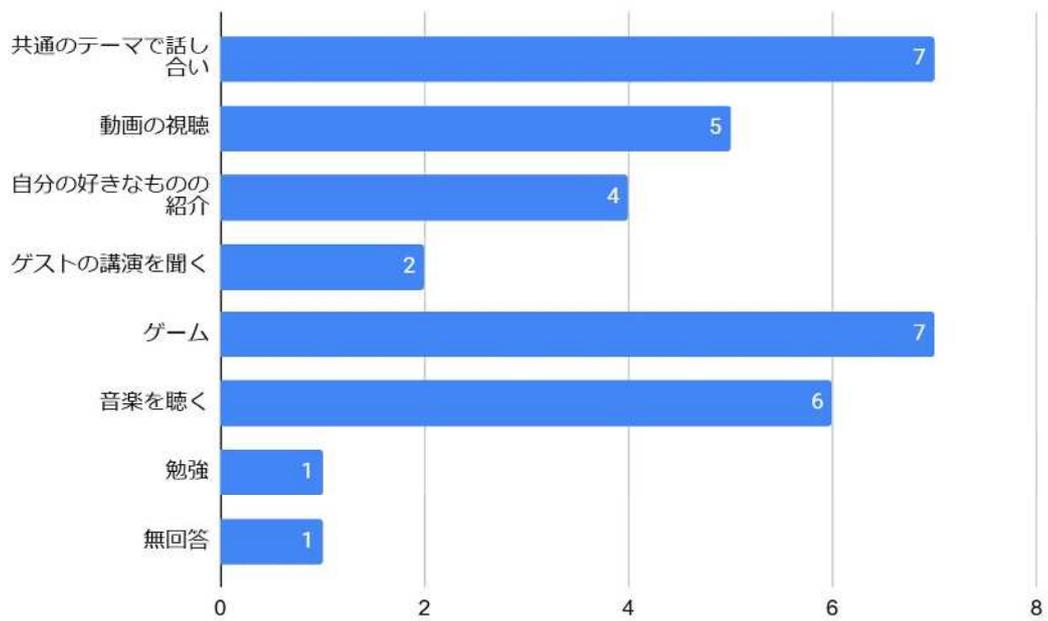
5-3. バーチャルユースセンターに参加しやすい回数について、あてはまるものをすべて選んでください。

13件の回答



6. 実施してほしい交流・体験プログラムを1つ選んでください。

22件の回答



(その他)

- ・全部
- ・ラジオ
- ・志木市を作ってほしい

7-1. 若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。

18件の回答



7-2. その理由を教えてください。

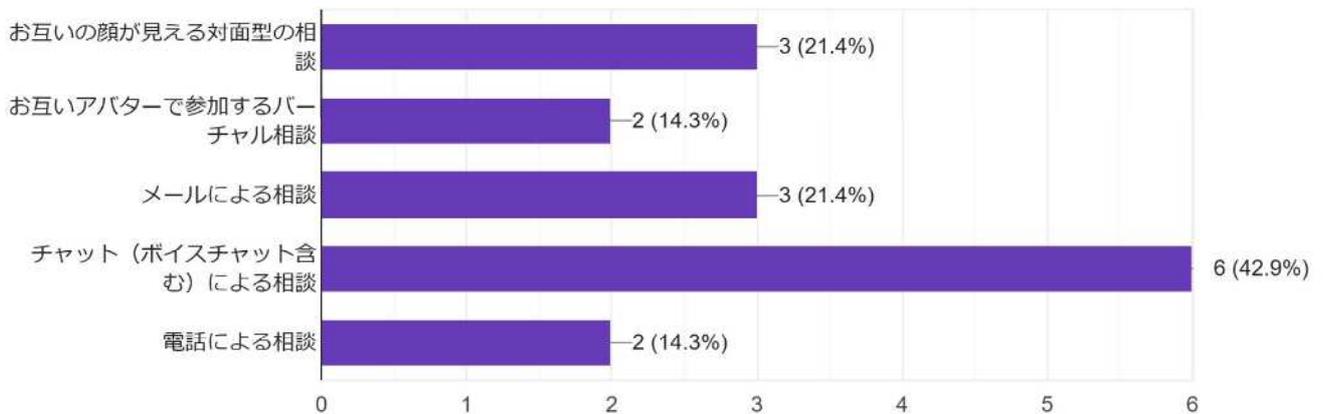
12件の回答

お互いの顔が見える対面での交流・体験	相手の方の表情や声のトーン、しぐさがとてもよくわかるし、一緒に話題や感情を共有するには、個人的意見として対面の方が深く関われると僕は考えて、僕自身人の表情がわかりにくくて文章やリアクションだけだと誤解を生むこともあると考えたからです。
	表情などがわかりやすい
	表情が見えた方が相手の気持ちがよくわかるから、話しやすいと思うから。
	相手がどのような人かわからない上で関わりたいと思う。信頼関係が成り立っていない人に話をしたいと思わない。(バーチャル上で)信頼関係をどう築くかが課題。

お互いアバターで参加する交流・体験	顔を出したくないから
	今は顔を見せることに(あまり)抵抗はないが、見せたくない人が多いと思うので、それに合わせたい。
	わざわざ「現地で集まる」という労力を使わなくていいから。金銭的な面で困っている人からすると、バーチャルで集まることにメリットがある。
	顔を出したくない人もいるから
	その方が緊張しないので
	顔見えるの気まずい
	なんとなく
顔は気まずいから	

8-1. (相談利用者のみ回答)あなたが悩みごとを相談する場合、どのような相談方法なら利用したいですか。
あなたが利用したい方法をすべて選んでください。

14件の回答



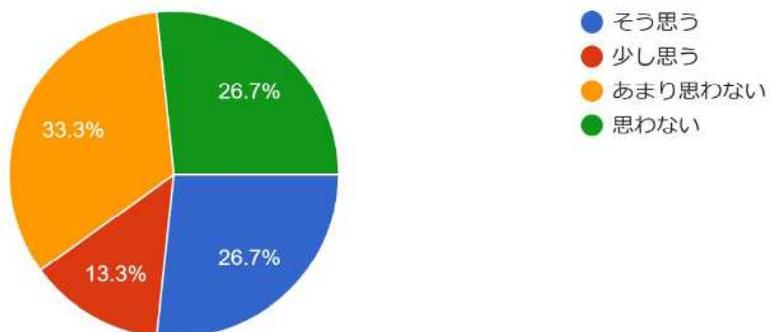
8-2. その理由を教えてください。

9件の回答

お互いの顔が見える対面型の相談	対面の方がラポールが形成しやすいから、相手の表情が見えるのは重要だ。
お互いアバターで参加するバーチャル相談	顔を見せずにメッセージなどを送り、リアクションがいっぱいあり、メールなどだと相手の思っている気持ちがわからないので、リアクションがあるのはとても良いと思った。
メールによる相談	・アバターも顔もみえないから ・とくにない
チャット(ボイスチャット含む)による相談	・話しやすいから ・楽だから
電話による相談	聞き取り/相談は信頼のおける人にする。顔が見えない人には相談しない。一度会ったことがあるのが前提で、対面で相談したい。バーチャル上では相談しない。
お互いの顔が見える対面型の相談、 電話による相談	自分の話(悩み事)をする際に、できるだけ的確に伝えるには文章やアバターだとなかなか伝わりにくいので、声や相手の顔がわかって自分の気持ちが伝わりやすい電話や対面がいいと思いました。
メールによる相談、 チャット(ボイスチャット含む)による相談	文章を書く方がラクだし、気軽な感じがするから。

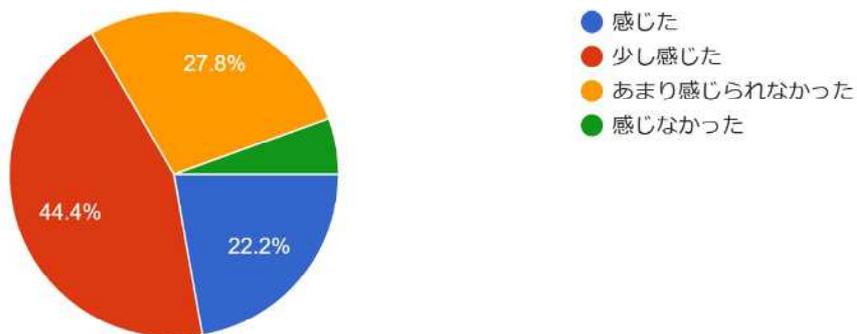
9. (相談利用者のみ回答)バーチャル空間であれば、人に相談しにくいことも相談しやすいと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。

15件の回答



10. バーチャルユースセンターを家(普段寝起きしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外の「ここに居てもいい」という居場所と感じたか、あなたの考えに近いものを1つを選んでください。

18件の回答



埼玉県バーチャルユースセンター中間報告

仮 説	検証状況
子ども・若者にバーチャルの居場所があれば継続した利用があるのではないかと。	リアルに居場所のある人の利用は継続せず、リアルに参加しづらい人の利用は継続する傾向がある。 ・ リアルの居場所、教育支援センター、校内居場所カフェ等利用者に対しデモ等行ったが、実際の利用や再度の利用に結び付かない傾向にある。
不登校・引きこもり等においてニーズがあるのではないかと。	リアルに参加しづらい人に一定のニーズがあると考えられる。 ・ 不登校・引きこもり等のこどもの親からの相談や、支援機関から不登校・引きこもり等へのアプローチとして有効ではという意見があった。
バーチャル空間でコミュニケーションをとれたら楽しいのではないかと。	楽しみ方は人によって違いがあるため、ニーズを踏まえた魅力を提供する必要がある。 ・ コミュニケーションはリアルの方がとりやすい(表情や仕草等)面もあるため、他の魅力(例;プログラミング教室)も提供していく必要がある。
子ども・若者にバーチャルの匿名性が有効ではないかと。	匿名性は有効と認められる。 ・ 顔出ししても問題ないと答えた方の利用は継続せず、匿名を希望した者の利用が継続する。
バーチャル空間であれば、誰でも気軽に入れるのではないかと。	誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある。 ・ 行政の運営する居場所には安全性を求める声が多いため、利用にあたって登録手続きを整備することが望ましい。 ・ 使用にあたっては、自分の端末や安定した通信環境を有することが必要。 ・ 開室時間が限られているため、事前に日程調整が必要等、一定の不便さがある。
バーチャル空間であれば県内全域から利用があるのではないかと。	県内各地での利用が進んでいる。 ・ 更に支援団体の少ない地域での検証を進めるとともに、各地の参加者をつなぐような利用を進める必要がある。

ターゲット層の可能性	① 家庭・学校・地域等のどこかに居場所があり所属感を持てる層 ⇒ 信頼するスタッフ(キーパーソン)や仲間とリアルで過ごすことに価値を感じている。 ただし、バーチャル空間の居場所は、選択肢がひとつ増えるものであり、リアルとバーチャルの相互補完的關係。 ② 引きこもり状態や不登校等、生きづらさや困り感を抱える層(特にニーズがあると思われる層) ⇒ 場への安心感を求める傾向がある。ただし、参加までのハードルが高いため、強い「参加意識」が求められる。
展望	① 子ども・若者の声を聴く、やりたいことを実現する仕組みをつくる ⇒ プログラムの工夫、バーチャル埼玉以外のコミュニティを整備する。 ② バーチャル空間から段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく

今後の議論

- 事業の方向性(解決すべき課題)の明確化
- 事業対象者に届く最も効果的な広報手法の検討
- リアルとバーチャルの相互補完的關係の在り方
- それぞれの目的に合った最適なプラットフォームの検討

リアルとバーチャルの概念上の比較

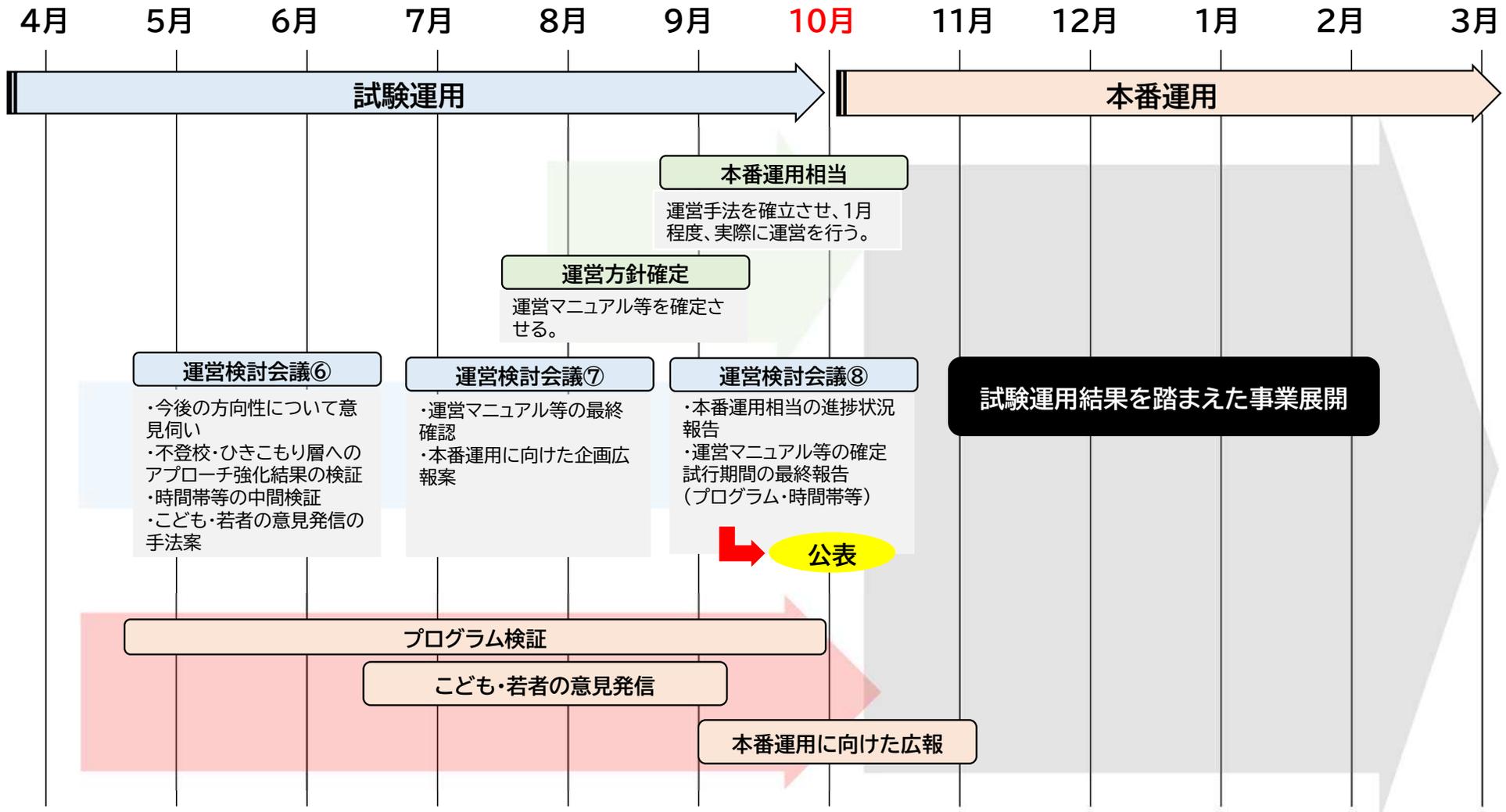
	リアル	バーチャル
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接の対面コミュニケーションで信頼関係を築きやすい ・ 実際の体験や実物を確認できる ・ 身体の動きや表情による非言語コミュニケーションが可能 ・ 突発的なアイデアや議論が生まれやすい ・ 社会的なネットワーキングがしやすい ・ 感情の共有が容易 <p style="text-align: center;">直接コミュニケーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動の必要がなく、どこからでも参加可能 ・ 時間や場所の制約が少ない ・ 大人数でも容易に参加可能 ・ デジタルツールを活用した効率的な情報共有が可能 ・ 記録や資料の共有が容易 ・ 環境負荷が少ない ・ 柔軟なスケジュール調整が可能 ・ コストが抑えられる(交通費、宿泊費など) ・ グローバルな参加が容易 <p style="text-align: center;">柔軟でアクセスしやすい</p>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動や会場のコストがかかる ・ 時間や場所の制約がある ・ 天候や交通など外部要因に影響を受けやすい ・ 大人数での対応が困難 ・ 突発的な対応が必要な場合がある ・ 環境や設備の制約がある <p style="text-align: center;">コストと時間の制約</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非言語コミュニケーションが限定的 ・ 技術的なトラブルが発生する可能性 ・ リアルな体験や実物確認が難しい ・ 長時間の参加が疲れやすい ・ インターネット接続の品質に依存 ・ セキュリティやプライバシーの懸念 ・ 参加者の集中力が持続しにくい ・ パーソナルな接触が少ない <p style="text-align: center;">非言語コミュニケーション</p>

出典:埼玉県専用生成AI AIたまちゃん



バーチャルの強み(リアルの弱み)である「**柔軟でアクセスのしやすさ**」を伸ばした取組も重要

埼玉県バーチャルユースセンターの今後の予定について



第2～4回埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議 ・ 結果概要

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	質問	交流部屋は、対象年齢で部屋を分ける、年齢を分けない、どちらを主として運営するのか。	年齢を分けた方が確かなプログラムを提供できる一方、異年齢が集まることの良さもある。 試行の中で検討する。	運営が安定し、一定の利用者が定着してきたところで、利用者の声を踏まえて検討を行いたい。	-
②	質問	Discordを活用するにあたって留意する点として何を考えているのか。不適切な発言がなされる可能性がある。	(受託事業者) 運用ルールをこども達に働きかける。 ワード登録を行い、不適切な発言があった場合、運営側にアラート通知が届く設定をする。そして、発言をしたことに対してケアやサポートをしていく。 なお、Discordはツールの一つの案であり、実際に活用するかどうかは今後、検討を行う。	-	-
②	質問	Discordを活用する場合、スタッフがいない時間においてもこども達だけのやりとりが発生するものか。	(受託事業者) こども同士のやりとりが発生することも想定している。 最初は事前登録したこども達だけの運用となるため、運営側がある程度各個人の把握はできる。 テキストチャットの履歴は残るため、運営が定期的に確認する運用が考えられる。	Discordに限らず、Teams等別のツールも含めて活用を検討する。	-
②	質問	Discordでの相談時間を設けるのか。	(受託事業者) 運営と直接会話が出来る時間帯はあらかじめ示す必要があるが、今後、検討を行う。	-	-
②	意見	バーチャルユースセンターとDiscordの棲み分けを整理することが課題。 ヨーロッパではDiscordがオンラインユースワークやデジタルユースワークの主戦場となっている。Discordだけで完結できる部分があるが、一方で、アバターを介したバーチャルユースセンターならではの良さもあると考える。それぞれの利点を踏まえ、どう活用していくのか、どうあるべきかを意識して議論していけると良い。	(受託事業者) バーチャルユースセンターの補完的な役割としてDiscordを活用することを考えている。 今後、検討を行う。	Discordに限らず、Teams等別のツールも含めて活用を検討する。	継続
②	質問	夜の時間帯に対するニーズがあると思われるが、その対応はどのように考えているのか。	(受託事業者) 夜の時間にニーズがあるだろうということは理解しているが、昼間の時間帯で生活リズムを整えられた方がよいという考えもある。また、あまりに遅い時間では生活リズムが崩れる可能性もある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	協力小中学校に対する広報はどのように考えているのか。	協力小中学校に対して、一斉にチラシ等を配布することを想定している。	-	-
②	質問	1月になると、すべての小学校から大学に一般公開するのか。	試行の中で検討する。	-	-
②	意見	連絡先の登録について、通常の小中学生はメールアドレス等はあまり持っていないと思われる。 また、未成年は保護者の連絡先を登録することとなると、居場所感を下げる要因となり、必要なニーズ(こども)に届かないリスクになる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めるとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	保護者の連絡先を求めることは義務教育かそうではないかで分けてもよいのではないか。中学生までは保護者の連絡先を求め、高校生からは任意とする運用も考えられる。 また、保護者の同意が得にくい場合においては、例えば学校の先生や、施設の施設長、ケースワーカーといった親以外の選択肢を認める等、柔軟な対応が必要と思われる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めることとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	本人や家族と連絡をとるために、登録時にメールアドレスや電話番号を求めることが必要であることは理解できる。	-	登録時にメールアドレス及び電話番号を求めることとする。	済
②	意見	メインターゲットをどこに設けるか議論が必要。 ユニバーサルかターゲットか。試行当初はターゲットを絞って始めることは了解しているところであるが、将来的にどの層をメインターゲットに据えるかによって運営のルールも変わってくる。 ただ、真に居場所が必要であることも達にも利用したいと思ってもらえるよう、形式上はユニバーサルとして敷居を下げ、実際のメインターゲットは別に据えるという考え方もある。 試行期間中はターゲットを絞り、支援を要することもだけに絞ることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中でニーズを検証し、利用者層の拡大にあたっては慎重に検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)ことも・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	試行期間の間は、ずっと支援を必要としていることも達だけを対象とするということも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)ことも・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	ユニバーサルの部屋とターゲットを絞った部屋、両方を用意し、行き来できるようにすることも考えられる。	-	講義的なプログラムの回のほか、子ども・若者が主体となって活動するような回、特定の目的を持たない余暇の回など、様々なプログラムを設け、子ども・若者のニーズに幅広く対応する。	継続
②	質問	プライベートテキストチャットで別のサイトのURLや連絡先の交換等が行われる可能性があるが、対応する方法はあるか。	制限する機能はないため、運用ルールの中を定め、対応・指導していく必要がある。	11月14日にプライベートテキストチャットを制限する機能が実装された。バーチャルユースセンターにおいては当面の間、プライベートテキストチャット機能は原則禁止の設定とする。	済
②	意見	不適切な発言等をしてキック(強制退室)された子どもに対してケアの方法を考えておくことが必要。	登録時に連絡先を確認し、ケアに努める。	ケアを行う旨、マニュアルに追記。	済
②	意見	利用者間のプライベートテキストチャットは早い段階で認められていくものという印象。	試行の中で検討する。	空間内の安全性が求められる一方、プライベートチャットのログを確認すること等できないため、現仕様の中においては制限を継続する。	済
②	意見	入室にあたって、なりすましを防ぐために合言葉等によりきちんと本人確認をしてから入室させるといったことも考えられるが、一方で、利用のしやすさを優先させるといった考え方もある。どの方法が適切かについては試行の中で検討していただきたい。	試行の中で検討する。	合言葉での入室確認は事務的に支障が生じるため、ニックネームによる確認とする。	済
②	意見	今後、バーチャルユースセンターの活動が教育課程上の学校外の活動としてカウントされることも考えられる。	-	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
③	質問	お試しで参加した者が登録をしているのか。	お試し参加の者は登録していない。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	質問	学習プログラムはどこで行う予定か。	(受託事業者) オープンテラスの使用を考えている。例えば鍵付き相談ブースのスクリーンを使用することも検討している。そこで学生ボランティア等がテキストチャット中心で教えるイメージで考えている。	-	-
③	意見	同じ場を共有していることの強みを活かすためには、テキストチャットよりもボイスチャットの方が大事ではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) ボイスチャットを希望しない利用者も一定数いるため、プログラム内容に併せて使い分けをすることとする。	済
③	質問	身分証明の確認を緩和するということが、具体的にどのような方法か。	支援機関に在籍確認を行うことで本人の身元確認ができた整理したい。	-	-
③	意見	どこにも在籍していない、中学校にも高校にも在籍していないような人に対する登録方法を検討していただきたい。	-	試行期間当初においては、登録時にオリエンテーションを実施し、本人確認を行う。	済
③	意見	入室にあたっては、システムで本人確認できた方が心理的安全性が高い。	パーチャル埼玉の機能としては実装されていないが、担当課所に要望として伝えている。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
③	質問	利用拡大の状況は。	教育支援センターは調整中。 そのほか、市町村に対して協力の通知を发出しており、協力の相談があれば適宜対応していく。	-	-
③	質問	実際に運営している委託事業者の意見として伺いたいが、この事業は、何に向いていそうか。 パーチャル埼玉をどう使うかということから始まっており、何かニーズがあって始まっているものではないという難しさを感じている。 その中で、匿名のライン相談やリアルな居場所づくり等も進んでいる中、どんな強みがあると感じているのか。	(受託事業者) 行政が運営しているという信頼性があり、子どもや若者の安全なパーチャルな居場所が提供できるという点に可能性があると感じている。	-	-
③	意見	子どもや若者の安全なパーチャルな居場所が提供できるという点に強みがあるのであれば、そういったニーズに尖らせた拡充の仕方等を進めていくべきではないか。	-	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)子ども・若者へのアプローチを強化する。	済
③	質問	登録している人はどのような人か。	(委託事業者) 現在の傾向としては面白そうな場所として興味を持った人が登録している割合が大きい。 ただ、中には学校に行かないという選択をしている人や、その時のコンディションでリアルな現場に来れないような人もいる。 (県) 支援が行き届かない層への掘り起こしも検討していきたい。	-	-
③	意見	オンラインの交流からオフ会に繋げていくことのハードルは高い。 間にいるキーパーソンがとても重要になると思う。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
③	意見	登録にあたっての性別確認については、男女及び男女に該当しないという3択でよいのではないか。 もしくは任意入力でもよいのではないか。	-	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	意見	性別の配慮については、当事者本人たちから意見を聞いた方がよいのではないか。	試行の中で検討する。	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	質問	アンケートは記名式か、無記名式か。 記名式の場合、書きやすさは下がる等の良し悪しはある。	利用者向けは無記名式、支援機関向けは記名式を検討している。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	意見	何のプログラムに参加したか把握した方がよいのではないか。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) 設問数厳選のため一旦見送ることとする。	済
③	意見	フェイスシートにあたる部分は質問した方がよいのではないか。	-	フェイスシートにあたる部分の質問項目を追加する。	済
③	意見	質問をする目的に併せて質問項目を設定すべき。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。	済
③	質問	アンケートの配布方法はどのように考えているのか。	フォームに入力してもらう方法と小学校低学年向けに聞き取る方法を検討している。	-	-
③	意見	アンケートは回答する側の負担や時間的な制約がある。例えば小学生には小学生向けのより簡易なアンケートがあってもよいのではないか。	検討を行う。	小学生向けのアンケートの作成。	済
④	質問	バーチャル埼玉とZOOMを両方使用するメリットは何か。	バーチャル埼玉の機能的に制約されている部分を必要に応じて外部ツールの活用により補完するというもの。	-	-
④	質問	テキストチャットとボイスチャット、どちらを使う利用者が多いか。	圧倒的にテキストチャットを使っている方が多い。	-	-
④	意見	学校で配布されているタブレット等にリンクや情報が含まれるとよい。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
④	意見	学校内の保健室等で休んでいるといった、学校には行っているけれども違う教室でゆっくりしていることも達にも一定のニーズはあるのではないか。	検討を行う。	SSW、特別支援教育コーディネーター等学校内の支援業務従事者に対し事業紹介の通知を发出する。	済
④	意見	アバターの種類が少ないのではないか。また、カスタマイズできるようにできないのか。	担当課所に要望として伝える。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
④	意見	バーチャル埼玉を特に目的なく回遊している者に対して、空間内にある掲示板等で情報発信したらどうか。	(委託事業者) バーチャル埼玉内に特に目的なく回遊している者はほとんどいない。また、プログラム以外の時間帯に訪れる者もほとんどいない。	-	済
④	質問	11月活動実績の中で22日だけ0人だった理由は何か。	(委託事業者) リアルイベントに人がとられてしまった。また、「表現哲学対話ミックス」というプログラム名もわかりにくかったと思われる。	-	-
④	意見	プログラム名が少し硬いのではないかと。	(委託事業者) プログラム名は工夫したい。	プログラム名は適宜見直しを行っていく。	済
④	意見	子ども達から発信する何か、その子ども達我真ん中に立って、実施できるようなプログラムが今後展開されていくとよい。	-	子ども・若者の意見発信となるプログラムを設定する。	済
④	意見	学校については、SCやSSWも良いが、特別支援教育コーディネーターや教育相談コーディネーターにこういった活動を、学校に行きづらい、教室に入りづらい人にどうかということをお願いできれば、個別に対応プログラム外で自由に来て何か話している人はいるのか。	検討を行う。	SSW、特別支援教育コーディネーター等学校内の支援業務従事者に対し事業紹介の通知を发出する。	継続
④	意見	公共施設とは違うため、現時点では参加者数で事業の善し悪しを評価することでも良いのではないか。色々試行する中で、将来の方向性を見据えていけるとよいのではないかと。	(委託事業者) ほとんどいない。 そういったところが理想ではあるが、まだ利用者もプログラムがなければ何をしたらいいのか少し戸惑うといった現状もある。 もう少し先を見据えて取り組みを進めたい。	-	-
④	意見	バーチャルユースセンターが大人気コンテンツを設け、皆がここに行きたいと思うようなことを想定するよりは、むしろここにこそニーズがあるような層を探り、尖らせていく方がいいのではないかと。	試行を進め、どこにニーズがあるのか考えていきたい。	リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)子ども・若者へのアプローチを強化する。	済
④	意見	オンラインネットワークを実施していくにあたり、この空間を使うことや単純な人数の増加をゴールとするのではなく、どこかのタイミングで他の方向性を考えることも必要ではないかと。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
④	意見	リアルな居場所との比較のほか、他のオンラインの居場所との比較も考えていく必要がある。バーチャルユースセンターの強みが行政が運営している安全性が強みであるならば、その点も踏まえて尖らせていくことも重要。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	質問	バーチャル埼玉で3D酔いをするが、対策はあるのか。	(委託事業者) 根本的な対処法はないため、長時間の利用とならないよう適宜休憩をばさむようしている。	-	-
④	意見	他自治体の不登校児向けメタバース事業においては、スタッフ1名は常駐していることを安心安全のポイントとしている。	(委託事業者) バーチャルユースセンターにおいても開室時間は常にスタッフがいます。	-	済
④	意見	周知について、今後の本格運用に向けて広く周知していくという考えがある一方、一般利用者の方が来ることによって、教室に行きづらいような子どもが利用しにくくなる恐れがあるのではないかと。	段階を追って周知を広げていくイメージである。 ターゲットを絞る方向性も良いのではないかとこの御意見もあったため、上げられるところから広げていきたい。	-	済
④	意見	放課後児童クラブ等において、夏の時期、熱中症警戒アラートが発令されると外遊びができなくなり、持て余すこともあったという話も聞いた。そういったタイミングで合同イベントのようなものが企画できるとよいのではないかと。	検討を行う。	夏の時期において、利用を促す通知やイベント等の検討を行う。	継続
④	意見	登録にあたって電話による本人確認を実施することについてはメリット・デメリットがある。義務教育年齢の子どもについては、電話連絡によって保護者が安心する側面もある。今後、登録者数が多くあった時に向けてSNS通知のような工夫も考えられる。	検討を行う。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続

埼玉県バーチャルユースセンター 運営マニュアル（案）

令和6年10月1日
令和6年11月1日改訂
令和7年2月1日改訂

目次

1	バーチャルユースセンターについて	1
(1)	バーチャルユースセンターの設置場所について	1
2	バーチャル埼玉について	2
(1)	エリア全体概要	2
(2)	入室方法	2
(3)	基本操作方法	4
(4)	管理者権限保有者向け機能	6
(5)	バーチャル埼玉のセキュリティ	8
3	バーチャルユースセンターエリアの操作方法等	9
(1)	共通機能について（バーチャル埼玉相談室以外）	9
(2)	鍵付き相談ブース	9
(4)	バーチャル埼玉相談室	10
4	バーチャルユースセンターの利用方法	12
(1)	利用対象者について	12
(2)	利用者登録及び入室対応について	12
5	交流部屋の運用方法	14
(1)	開設時間等	14
(2)	運営スタッフの配置について	14
(3)	交流部屋の機能について	14
(4)	交流や体験の内容と実現手法	15
(5)	運営上の留意点	16
6	相談について	18
(1)	相談窓口について	18
(2)	相談部屋の運用について	18
(3)	相談部屋の機能について	19
(4)	相談部屋の運営上の留意点	19
(5)	専門支援機関等へのつなぎ方について	20
7	オフ会について	21
(1)	オフ会の実施について	21
(2)	募集方法	21
(3)	オフ会の実施フロー	21
8	利用者アンケートの実施について	22
(1)	利用者アンケートの実施について	22
(2)	アンケート実施方法	22



1 バーチャルユースセンターについて

(1) バーチャルユースセンターの設置場所について

埼玉県が設置するバーチャル埼玉 (<https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/>)
の相談エリアにバーチャルユースセンターを設置するものとする。

なお、設置にあたって主に、管理者が入室制御を行うことできる「グループワーク
ルーム（車座形式）」「グループワークルーム（教室形式）」「オープンテラス」
「バーチャル埼玉相談室」「鍵付き相談ブース」で交流・相談事業を行うこととす
る。

交流事業 … 「グループワークルーム（車座形式）」「グループワークルーム（教
室形式）」「オープンテラス」を主に活用

相談事業 … 「バーチャル埼玉相談室」（3部屋）「鍵付き相談ブース」（5部
屋）を主に活用

2 バーチャル埼玉について

バーチャル埼玉は、monoAI technology 株式会社が運営する XR CLOUD システム上に構築されている。

* バーチャル埼玉の詳細は「全庁共通メタバース空間《バーチャル埼玉》操作マニュアル」を参照すること。

(1) エリア全体概要



(2) 入室方法

① バーチャル埼玉入室方法

バーチャル埼玉 LP (ランディングページ) から空間にアクセスを行う。
空間 URL を直接リンクさせアクセスすることも可能。



- * バーチャル埼玉 LP からエントランスエリアに遷移する際に、ニックネーム設定・アバター選択を行った上で、エントランスエリアに遷移する。
- * 「ブラウザで入室する」と「アプリ (XR CLOUD アプリ) で入室する」が選択できるが、ブラウザ版ではカメラ機能などの一部機能が制限されるため、アプリ版での利用を推奨。

② バーチャル埼玉相談室への入室方法

バーチャル埼玉 LP とは別に県が指定する URL によりアクセスする。

県が指定する URL は、事前に申し込みをした者に対し個別に周知する。



「鍵付き相談ブース」と「バーチャル埼玉相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

バーチャル埼玉相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。

鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

③ サービス概要

空間利用：24時間／365日（定期・緊急メンテナンス時を除く）

利用推奨環境：WEBブラウザからアクセス可能。

ただし、管理者向けの一部機能は XR CLOUD アプリケーション（PC/スマートフォン）からの利用となる。

ネットワーク環境：回線速度下り 30Mbps 以上推奨

推奨環境：

	Windows PC	県職員用PC	Mac PC	iOS	Android
OS	Windows10,11	Windows10	macOS 11(Bug Sur) 以降	14.0～16.x. 17.4 以降	Android OS 10以降
CPU	Intel Core i5-6400 以上 AMD Ryzen 1400 以上	Intel Celeron 4205U	Intel Core i5 以上	-	-
メモリ	8GB以上	4GB	8GB以上	4GB以上	6GB以上
ブラウザ (※1)	Google Chrome	○	○	○	○
	Microsoft Edge	○	-	-	-
	Safari	-	-	○	-
その他		(※2)	MacBook Pro 13インチ 2017年モデル以降	iPhone XS以降の端末 ※iPhone XRは除く	日本国内主要4キャリアで販売 されているモデル

(3) 基本操作方法

① アクセス方法

Step① バーチャル埼玉 LP にて入場方法を選択

- XR CLOUD アプリを起動し、管理者として事前に登録したアカウントでログインしてから、「アプリで入室する」を選択する。
他のアカウントやゲストアカウントでログインしてしまった場合は、アプリを起動し、画面右の「端末情報をクリア」により過去のログイン情報を削除する。



Step② 空間へアクセス

- 入室時に「マイクを利用することの同意」が表示されることがあるため、必ず「許可」または「同意」をクリックしアクセスすること。

Step③ ユーザー名（ニックネーム）の入力

- 12文字以内でユーザー名を入力。ニックネームの先頭に、委託事業者は「VYC スタッフ」、県職員は「青少年課」と記載する。
* VYC利用者に対しては、個人情報保護の観点から実名の入力は行わない。



Step④ アバターを選択

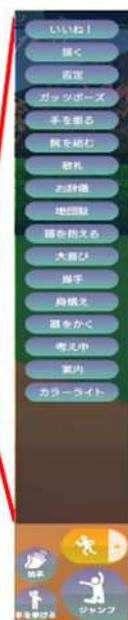
- 委託事業者及び県職員は、原則として「スタッフアバター」を選択。



② 空間内でのアクション方法

画面右下の「ジャンプ」・「手を挙げる」・「拍手」をクリックするとアバターが対応する動きをする。

アクションをし続けるものがあり、アクションをやめる場合はもう一度選択したアクションのボタンをクリックする。



○ リアクション一覧

ジャンプ、拍手、手を挙げる、いいね！、頷く、否定、ガッツポーズ、手を振る、腕を組む、敬礼、お辞儀、地団駄、頭を抱える、大喜び、握手、身構え、頭をかく、考え中、案内、カラーライト

③ ボイスチャット

「オープンボイスチャット」と「プライベートボイスチャット」が可能。

オープンボイスチャット … マイクを ON にし、自分の周囲にいる利用者と音声で会話ができる。なお、会話が可能な距離が設定されているため、声が聞こえない場合はその人の近くまで移動すること。

プライベートボイスチャット … 選択したユーザー（2～10人）と個別会話が可能。リストから相手を選び、プライベートボイスチャットの申請を行い、相手が申請を許可すると可能となる。

④ テキストチャット

「オープンテキストチャット」と「プライベートテキストチャット」が可能。

オープンテキストチャット … エリア内にいる全利用者に対してテキストでメッセージを送信。

プライベートテキストチャット … 特定のユーザーを指定して1対1でのテキストチャットが可能。

⑤ 空間内でのカメラ撮影

アプリを利用した場合のみ「カメラ機能」が利用可能。

ブラウザ利用の場合は端末のスクリーンショット機能で代替。

⑥ エリア移動方法

エリア選択画面によるエリア移動とワーブゲートを用いたエリア移動の2種類がある。



⑦ エリア退出方法

Web ブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタンにより退出が完了する。

PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリを終了することで退出が完了する。

(4) 管理者権限保有者向け機能

① カスタムパネルの更新

空間に配置されたカスタムパネルの更新を行うことが可能。



※1 同期：閲覧中の状態が他の利用者にも反映される。（全員が同じ情報を閲覧）

※2 非同期：閲覧中の状態が他の利用者に反映されない。（利用者ごとに情報を閲覧）

② キック機能

不規則行動等を行う利用者をキック（強制退出）させることができる。

エリアメンバーボタンまたは、画面上でユーザーをクリックし、キックするユーザーを選択し、強制退出させることが可能。



③ 拡声マイク機能

「拡声マイク」機能を利用することで、該当エリア全体に対して音声が届く。

プライベートボイスチャットエリアが設定されている場所に対しても音声を届かせることが可能。

④ 画面共有

PCのXR CLOUDアプリを利用することで、相談者の画面を共有することが可能。



* 動画を共有する場合、音声は共有されない。

* 「ライブカメラの開始」をクリックすることで、PCのカメラや外部出力に接続されているカメラを利用した映像の共有も可能。

⑤ エリア通知機能

エリア単位での通知が可能。

通知時に居なくとも、エリアに訪れたタイミングで通知を見ることが可能。

* オープンテキストチャット欄に「/a11+半角スペース 通知内容」を入力し、最大100文字まで送信可能。

⑥ テキストチャット・ボイスチャット

管理者は発言やテキストチャットが禁止されているエリアにおいてもボイスチャット可能。

スタッフ間で事務連絡等を行う場合は、空間内のボイスチャットやテキストチャットを利用せず、外部のチャットツール等の利用を推奨。

(5) バーチャル埼玉のセキュリティ

テキストチャットのブロック：不適切な発言を自動でブロックする。NGワードを含むテキストは「NGワードが含まれているため送信できません」と表示され、送信できない。

キック：不審者や妨害者を管理者が強制的に排除する。

通信暗号化：通信の暗号化により会話内容の傍受を阻止する。

会話漏洩の防止：会話内容が第三者に漏れないように空間内を制御する。

* テキストチャット等のログは残らない。

3 バーチャルユースセンターエリアの操作方法等

(1) 共通機能について（バーチャル埼玉相談室以外）

- ・ テキストチャット（グループテキストチャット*／プライベートチャット）の利用が可能。
※ ブース内に居る人のみとチャットが可能。
- ・ ボイスチャットは基本的に利用不可。管理者が許可した場合のみ利用可能。
- * ボイスチャットの利用を可に変更した場合は、エリア利用終了時、利用不可の設定に戻すこと。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。

ボイスチャットの制御（発言禁止の解除）



- 画面下部の「編集モード」→「発言禁止制御」をクリック
- 画面の右上の発言禁止制御画面が表示（右図→）
- 設定変更はPCのXR CLOUDアプリでのみ可能です

● 初期状態は全てが発言禁止に設定

● 発言禁止制御エリア

- ① 相談エリア
- ② 個別エリア（教室形式）
- ③ 個別エリア（車座形式）

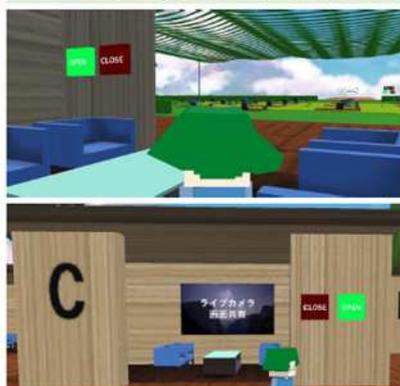
● 発言禁止解除をしたいエリアのチェックボックスをオフし、適用をクリック



- 利用者の画面では「ボイスチャットが可能になった」旨が表示され、マイクボタンが活性化

(2) 鍵付き相談ブース

鍵付き相談ブース 開閉制御



- ・ プライベートボイスチャットエリアが設定されており、画面共有している内容や音声ブース外に漏れることはない。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「OPEN（利用者が入れる状態）」となり、ボタンはブースの外と中の両方に設置されている。扉が閉じている状態でも外から強制的にオープンすることが可能。
- ・ 適正利用人数は4名程度。

*ブース内にアバターがいるかどうかのチェック機能はない。

(3) グループワークルーム（車座形式、教室形式）



- ・ 別エリアにある「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」の空間に移動するための制御機能。管理者は参加者を確認の上、入室制御を行う。最大30人まで入室可。
- ・ 「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・ 初期状態は「CLOSE（利用者が入れない状態）」。

(4) バーチャル埼玉相談室

① 共通機能について

- ・ テキストチャット、ボイスチャットの利用が可能。
- ・ カスタムパネルは管理者のみ利用が可能。
- ・ バーチャル埼玉相談室から、バーチャル埼玉に相互移動することは不可。

② 利用者向け

空間への入室は「待合室」⇒「前室」⇒「相談室」の順で入室する。

ただし、「待合室」から「前室」へ移動すると、「待合室」には戻れない。



エリアに入ると待合室に入室。「クリックで相談室へ」をクリックすることで、相談室の前室へ移動



前室へ移動。管理者の操作で相談室へ入室が可能



相談室に移動。退出する際はブラウザを閉じて退出

③ 管理者向け



案内パネル

- ・ 「待合室」に案内パネル（カスタムパネル）があり、内容に合わせて更新が可能。
- ・ 案内は相談室の利用法や注意点を掲示する。

相談室入室制御



- ・相談室の前にある「前室」にて相談者が正しいことを確認の上、相談室へ入室してもらうための制御機能あり。
- ・「OPEN」ボタン、「CLOSE」ボタンをクリックすることで扉の開閉を操作する。
- ・「前室」と「相談室」内の両方にボタンが設置されており、「前室」でOPENし、相談室内で「CLOSE」する運用を想定。

4 バーチャルユースセンターの利用方法

(1) 利用対象者について

県内に在住、在勤又は県内の学校（小学校、中学校、高等学校、大学、大学院など）に在学する者で、39歳以下の者。

なお、試験運用期間においては、下記スケジュールにより順次、募集を行っていくこととする。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
さいたまユースサポートネット	募集	利用開始					
市町村教育支援センター	募集	利用開始					
協力学校			募集	利用開始			
協力支援団体等			募集	利用開始			
一般					募集	利用開始	

(2) 利用者登録及び入室対応について

① 利用者登録の申請

バーチャルユースセンターHP (<https://saitamayouthnet.org/vyc/>) により登録申請をさせる。

*登録申請にあたっては、協力機関のスタッフと相談するよう依頼する。

(登録事項)

- ・ 氏名
- ・ ニックネーム
- ・ 生年月日
- ・ 在住市町村
- ・ 学校学年又は利用支援機関
- ・ メールアドレス
- ・ 電話番号

② 登録内容の変更

登録内容（転居、転校等）に変更があった場合、またはニックネームを変更した場合は、バーチャルユースセンターHPにより再度登録申請をさせる。

③ バーチャルユースセンターへの入室

バーチャル埼玉の相談エリアにおいて、管理者が入室制御を行うことできる「オープンテラス」「鍵付き相談ブース」「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」をバーチャルユースセンター設置場所とする。使用する空間については、交流内容に併せて選択する。

バーチャルユースセンターの入口にスタッフのアバターを配置し、利用者のニックネームを確認し、登録内容と一致した場合に入室を許可する。

④ バーチャルユースセンターの退室

バーチャルユースセンターの退室は自由とする。

5 交流部屋の運用方法

(1) 開設時間等

交流部屋は、「オープンテラス」「グループワークルーム（車座形式、教室形式）」で実施するものとし、空間の予約は県が行う。

1月ごとの交流部屋の開設時間、事業内容等のタイムスケジュールを作成し、協力機関を経由して周知を行う。

なお、週2日、1週間に8時間以上の開設を原則とし、時間・曜日等は固定しないこととする。

(2) 運営スタッフの配置について

利用者6～7人に対して1人の運営スタッフを配置する。

なお、当初は試験運用期間中でもあることから、一定の期間において開始時間において3人の運営スタッフを配置し、うち1人を運営上のリーダーとする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、運営スタッフの人数を減ずることは可とする。

(3) 交流部屋の機能について

① 利用者のプライベートテキストチャットの利用禁止

当面の間、利用者間でのプライベートテキストチャットの利用は禁止することとする。

運営スタッフと利用者間のプライベートテキストチャットについては認めることとする。

なお、プライベートテキストチャットを機能的に制限することはできないため、利用者に対して注意喚起を行うにとどまるとともに、テキストチャットのログは残らないことに留意すること。

② 利用者のボイスチャット機能の使用について

当面の間、利用者のオープン／プライベートボイスチャット機能の使用は禁止とし、利用者間での交流はリアクション及びオープンテキストチャットでのコミュニケーションとする。

運営スタッフはボイスチャットの利用は可とする。

ただし、交流事業の内容に応じ、利用者のボイスチャットの使用を可とすることはできる。

③ カスタムパネルの利用不可

「グループワークルーム（車座形式）、（教室形式）」において画像、動画等を投影できるカスタムパネルがあるが、利用者が使用することはできない。

(4) 交流や体験の内容と実現手法

① アンケートの実施

アンケートのうち「実施してほしい交流・体験プログラム」の回答結果で上位にあがったプログラムは積極的に実施する。

② 実現手法

基本的なスタッフ配置は、司会1名、進行補助1名、門番1名の計3名とする。

なお、利用者数が少ない等の場合は、進行補助を減ずることは可とする。

司 会：全体進行

進行補助：司会の補助。チャットや参加者のリアクションの確認

門 番：遅れてきた参加者や、途中で回線が落ちて再度入室したい参加者を部屋に案内する。相談エリアに入ってきた未登録の方への対応（質問対応、VYCの説明、雑談などに対するチャット対応）

<プログラム進行手順>

開始時には、必ずカスタムパネルに以下の「VYC利用のルール」を掲示し、司会が読み上げ参加者とルールを確認する。

「VYC 利用のルール」

- ① 思いやりの気持ちを大切に。
 - ・他人を不快にさせることは言わない。言葉遣いに気をつけよう。
- ② プライバシーを守ろう。
 - ・個人情報(名前、連絡先、住所など)を教えたり、聞いたりしない。
 - ・写真や動画の撮影・録音はしない。
- ③ 困ったときは、スタッフに相談しよう。

現実の世界と同じように、みんなが気持ちよく過ごせるように行動しよう。

ケース1) 外部講師によるプログラム

- ・ 司会から、本日のプログラム内容と講師の紹介をし、講話へつなぐ。
- ・ 最後に講師への質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース2) VVCスタッフによるプログラム（講話）

- ・ 講話するスタッフが司会進行も務める。
- ・ 本日のプログラム内容を説明し、講話開始。
※ゲストを招いている場合はゲストの紹介をする。
- ・ 最後に質問や感想をチャットなどで寄せてもらう。
- ・ 次回のプログラムの告知をし、退出方法を説明し終了。

ケース3) VVCスタッフによるプログラム（トーク）

- ・ 司会と進行補助の2名で掛け合いながらアイスブレイク。
- ・ その日のテーマに関して参加者に質問し、文字チャットまたは音声チャットにて回答してもらうなどで交流する。
- ・ 最後に、次回のプログラム日時を案内して、退出方法を説明して終了。

(4)(5) 運営上の留意点

① 運営スタッフは可能な限り同部屋で作業を行うこと

バーチャルユースセンターの運営中に不測の事態が生じた場合、リアルコミュニケーションにより迅速な対応の検討を行うため。

同部屋での実施が難しい状況においては、外部のチャットツール等を活用して、リアルと同様に迅速な対応の検討を行う。

② アバターによるコミュニケーションの留意事項

交流部屋で事業を行う際、ボイスチャットとテキストチャットが混在すると、スピードに差があり全体でのコミュニケーションが難しくなる。そのため、テキストチャットでのコミュニケーションを推奨する。

進行をボイスチャットで行う場合、ゆっくり話すことを意識する。特に、スタッフが掛け合いで進行する場合はスピードが早くなりやすく、参加者が聞き取れないことがあるため気を付けること。

②③ キック（強制退室）の運用について

不適切な発言、挙動等を行っている利用者がいた場合、一度注意を行い、それでも改善されない場合、キックによる強制退室を行うこととする。

ただし、利用のルールを守らない者（プライベートテキストチャット機能の使用等）、不審なアバターがいた場合については、事前予告なくキックを行うことを可とする。

キックの判断にあたっては、交流部屋のリーダーを定め、リーダーの判断で行うこととする。

なお、キックをした後、登録時に確認をしたメールアドレス等を用いてキックされた利用者に連絡をとり、理由の確認をする等アフターケアに努めることとする。

③④ 退室について

原則として、交流部屋から退室する場合は、バーチャル埼玉から退室することを推奨する。

なお、15分経過しても退室しない交流部屋での事業終了後、スタッフが指示しても退出しない利用者がいた場合は、キックにより強制退室させる。

* Webブラウザを利用している場合、ブラウザの「×」ボタン、PC/スマートフォンのアプリを利用している場合、アプリの終了。

6 相談について

(1) 相談窓口について

利用者に対する相談部屋は、「バーチャル埼玉相談室」に設置することとする。
なお、「バーチャル埼玉相談室」の利用が出来ない場合は、「鍵付き相談ブース」を利用することとする。

この他、利用者及び利用者以外からの相談窓口を「専用メール、LINE、電話、~~Discord~~」等に設置する。~~「Discord」の設置については、引き続き検討する。~~

(2) 相談部屋の運用について

① 予約について

相談希望者に対し、相談日時及びバーチャル埼玉相談室のURLを送付する。
連絡調整にあたっては、バーチャル埼玉のテキストチャット機能は使用せず、専用メールまたはLINEより案内を行い、Googleカレンダーにて予約を行う
メールアドレスについては、バーチャルユースセンターHPより入手する。
メールアドレスが入手できない、本人がすぐに相談を希望している等の場合においては、相談エリアにある「鍵付き相談ブース」にて相談を行う。
なお、「バーチャル埼玉相談室」「鍵付き相談ブース」ともに事前予約が必要となることから、委託事業者と県が連携し、適宜空間予約を行うこととする。

「鍵付き相談ブース」と「バーチャル埼玉相談室」の違い

違い①・・・「他のエリアとつながっているかどうか」

別 URL の部屋は他のエリア（相談エリア含む）とつながっていない。

違い②・・・「相談室に直接リンクできるか」

バーチャル埼玉相談室は URL により直接相談部屋の待合室に飛ぶ。

鍵付き相談ブースはエントランスを経由する必要がある。

② ルールについて

相談内容の録音やスクリーンショット等の録画は禁止とする。また、10分以上、利用者からリアクションやチャットでの応答がない場合、相談を終了する。

(3) 相談部屋の機能について

① テキスト／ボイスチャットの利用

相談者の希望に応じて、テキスト／ボイスチャットいずれかにより相談対応を行うこと。

② カスタムパネルの利用

各相談部屋にカスタムパネルが設置されているため、相談スタッフは必要に応じて適宜利用すること。

(4) 相談部屋の運営上の留意点

① 相談記録の作成

相談スタッフは、相談した内容等を記録として残すこと。

なお、相談記録を含む個人情報の管理には十分に留意し、他者が相談内容を知ることがないようにすること。

② 専門支援機関等へのつなぎ

相談者の希望に応じて専門支援機関等へつないでいくこととする。

ただし、相談は専門支援機関につなぐことが目的ではないことから、あくまで相談者の自発的な発言によるものであることに留意する。

なお、委託事業者が相談者と直接会って支援することはしないこととするが、委託事業者が別途実施している事業に案内することを妨げるものではない。

(5) 専門支援機関等へのつなぎ方について

相談者から専門支援機関等の利用等について希望があった場合、下記の手順によりつないでいく。

Step① 相談者から、より専門的な支援機関等で相談したい旨の発言を受ける。

Step② 相談者から、専門支援機関等を探すため、以下の内容を確認する。

- ① 希望する支援体系等
- ② 希望する地域
- ③ 保護者への情報共有について（年齢に応じて）
- ④ 今後の連絡方法（メール、相談部屋等）

Step③ 相談者に対し、希望に合う専門支援機関等を探し、別途紹介する旨伝達し、終話。

Step④ 相談者の希望に合う専門支援機関等を探し、相談者（または保護者）に対して情報提供を行う。

* 保護者への連絡については、協力機関に協力を仰ぐこととする。

Step⑤ 相談者（または保護者）に対し、以下の内容を確認する。

- ① 氏名等や相談内容について専門支援機関等に伝えることを希望するか。
- ② 不安な点等ないか。

Step⑥ 相談者（または保護者）の希望に応じ、適宜、専門支援機関等との調整を行う。

7 オフ会について

(1) オフ会の実施について

利用者の希望や気持ちの変化に応じて、バーチャルユースセンターの利用者に限定した対面の交流、体験の機会を提供する。

なお、利用者アンケート等を通じて利用者の希望を確認した後、企画・立案をする。

(2) 募集方法

1月ごとのオフ会の実施日、内容等のタイムスケジュールを作成し、協力機関を経由して周知を行う。

(3) オフ会の実施フロー

Step① 利用者とバーチャルユースセンタースタッフ間の関係づくり

* 交流部屋での事業やTEAMSでの交流を通じて関係構築

Step② 聞き取りやアンケート等を通じて、利用者からオフ会の実施希望を確認

Step③ オフ会の企画・立案

* 利用者の声を反映したテーマに応じて企画を行う

* 実態に応じて、利用者が主体的に企画を行うことができるようサポート

Step④ オフ会の実施

8 利用者アンケートの実施について

(1) 利用者アンケートの実施について

試験運用期間中においては、事業実施後、アンケートを実施し、事業運営の参考とする。

アンケートについては、事業に対する率直な感想のほか、事業内容の希望を確認するものとする。

(2) アンケート実施方法

バーチャルユースセンターの利用者に対し、協力機関を通じてアンケートを行う。必要に応じて協力機関に行き、直接聞き取りを行う。

この他、適宜、交流・体験事業実施時に、利用者との意見交換を行う。

アンケート結果及び意見交換の結果については、翌月の事業に反映させるとともに、翌月のタイムスケジュールの案内と併せてフィードバックを行う。

埼玉県バーチャルユースセンター 操作マニュアル

<教育機関・支援機関向け>

1. 利用について

(1) アクセス方法

Step① バーチャル埼玉 HP(<https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/>) にアクセス

- Web ブラウザでアクセスする場合：「ブラウザで入室」をクリック
- アプリでアクセスする場合：「アプリで入室」をクリック
 - アプリダウンロード URL： <https://xrcloud.jp/>
 - アプリインストール手順：<https://www.ticket.xrcloud.jp/help/1>



Step② 空間へアクセス

- 入室時に「マイクを利用することの同意」が表示されることがあるため、必ず「許可」または「同意」をクリックしアクセスすること。

Step③ ユーザー名（ニックネーム）の入力

- * 一般利用者と区別するためニックネームの先頭に「★」をつけること。



Step④ アバターを選択

(2) 基本操作方法

① 空間内でのアクション方法

画面右下の「ジャンプ」・「手を挙げる」・「拍手」をクリックするとアバターが対応する動きをする。

アクションをし続けるものがあり、アクションをやめる場合はもう一度選択したアクションのボタンをクリックする。



② ボイスチャット（左下マイクボタン）

マイクをONにし、自分の周囲にいる利用者と音声で会話ができる。なお、会話が可能な距離が設定されているため、声が聞こえない場合はその人の近くまで移動すること。

③ テキストチャット（左上）

エリア内にいる全利用者に対してテキストでメッセージを送信。



④ エリア移動方法

エリア選択画面によるエリア移動とワープゲートを用いたエリア移動の2種類がある。



⑤ エリア退出方法

- Web ブラウザを利用している場合：ブラウザの「×」ボタンにより退出
- PC/スマートフォンのアプリを利用している場合：アプリを終了することで退出

2 相談について（事前予約制）

（1）概要

バーチャル空間を利用した個別相談。チャットまたはボイスチャットでの相談が可能。

（2）予約方法

- メールの場合：info_vyc@synet-jp.org
- お電話の場合：080-7805-1780

（3）入室方法

Step① 事前に指定された URL にアクセス

Step② 「待合室」 → 「前室」 → 「相談室」の順で入室



エリアに入ると待合室に入室。「クリックで相談室へ」をクリックすることで、相談室の前室へ移動



前室へ移動。管理者の操作で相談室へ入室が可能



相談室に移動。退出する際はブラウザを閉じて退出